



# 信太の森ニュース

No. 43  
2023年5月31日

文責 田丸八郎



公園西エリア草原に整備された遊歩道とその先に建設されている管理棟 2023.05

今年の干支はウサギ。唱歌「ふるさと」の唄い出しに♪うさぎ追いかの山 小鮒釣りしかの川・・・♪とあります。この歌を唄うとき、誰しも自分の故郷を思い浮かべながら歌っていることでしょう。

この歌詞にある「兎追いかの山」は恐らく戦前であれば都市部を除けば日本全国どこにでもあったのではないのでしょうか。

戦前の食糧不足時代に兎を捕まえに学校から行ったという話を聞いたことがあります。今日のように動物性たんぱく質を摂ることの少なかった時代の話で、信太山丘陵でも行われていたのではないかと思います。

現在整備が進められている信太山丘陵里

山自然公園西エリア草原にノウサギの生活痕(糞)を数年前に見つけました。自衛隊演習場内に棲息していることは分かっていたが、自然公園予定地にまで出てくるとは思っていませんでした。

冬は餌となる草が少なくなり、生活圏を広げたこと、公園予定地西エリアでは、ネザサ、クズが繁殖して藪化していたところを刈り続けた結果、ウサギの食料となる草本類が生え出したことなどが考えられます。

公園予定地西エリアでの草刈もやや楽になり、草原らしくなってきました。そこは、カヤネズミの繁殖の場に、またノウサギの冬場の餌場となっているようです。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357 090-1225-9159

E-mail [tamahati@amber.plala.or.jp](mailto:tamahati@amber.plala.or.jp)

## 公園協議会の動きと活動

里山自然公園は、西エリア主園路の舗装工事が終わり、管理棟の建設が進められています。

一方保全活動については、西エリア草原、ツツジの丘の草刈が行われ、竹の花が咲いて総枯れとなった竹林の整備が泉大津高校生も参加する中ですすめられました。

先月、先々月の保全活動日には、保全作業がすすめられる傍ら、耐火煉瓦でピザ窯を作ってピザが焼かれたり、会員の稲井さん率いるガールスカウトのみなさんにより焼き芋が焼かれ、保全活動終了後に活動参加者にふるまわれました。



ピザ窯作り：公園協議会保全活動日誌より

### 保全活動を楽しむために

毎年「里山講座」を実施していますが、受講した人が何故か増えていきません。どうしてなのか疑問を感じていました。

これまでの保全活動を振り返ると午前中はみんなで保全活動を行い午前中で終了しています。午後からの「保全活動ミーティング」を一般参加者にも呼び掛けて実施していますが、参加する人は一部を除き殆どありません。

保全活動は基本的に刈払機で草を刈る人と刈った草を運ぶ人に別れて作業をしますが、草運びは重くて単純な作業になります。

これは保全活動を行う上で基本的なことなのですが、草運びばかりでは、重くてしんどい作業になりあまり面白みがありません。

里山講座では、「里山の理念」をはじめ刈払機など保全用具の扱い方など「安全管理」「ク

ラフト」「ロープワーク」そして自然公園を造っていく上で必要な植物、生きもの等の知識の習得などについて実施されていますが、それっきりで主に草運びばかりの活動になっています。参加者個々の受け止め方にもよりますが、これまで「里山講座」を受講した人がいるにも関わらず活動参加者が一向に増えていきません。

そこで活動日のあり方について午後からの活動ミーティングで次のような提案をしました。

これまでの午前中だけの活動ではなく、午後からも活動ミーティングと並行してクラフト作りやロープワーク、刈払機等作業用具の扱い方のほか植物や生き物などに関する知識など技術や知識をレベルアップして後継者を育てていくような活動が必要ではないかと。

今後の活動について協議会でもその必要性は理解されているものと思いますが、こうした活動スタイルを今秋からでも取り組んで欲しいと思います。

前記のピザ窯や焼き芋などは、参加者が楽しめることを増やしていこうということで始められたものです。

活動日には保全活動とは別にになにか楽しめることを取り入れ保全活動を全体として楽しいものにしていく必要があるのではないかと思います。

### 惣ヶ池湿地外周柵補修工事

惣ヶ池湿地が整備されてから22年になります。信太の森FANクラブが惣ヶ池湿地と関わり保全活動を始めたのが、2013年度ではなかったかと思います。

その頃には整備時に設置された湿地の外周柵が朽ち果てて倒れたり柵が無いところもありました。

2015年3月から大阪みどりのトラスト協会の助成を得て3年掛けて外周柵を作り替



えてきました。しかし、落木による倒壊、意図的に蹴破られたり資材の腐朽により手入れが必要になってきました。

一部でしっかりしている部分もありますが、材質（米松）にもよるのか、7年を経過してみると資材の腐朽によるものが多く見られます。



大阪みどりの  
トラスト協会の  
「里山ネットワ  
ーク事業」に係  
る助成を得て昨

年度後半に  
助成を申請  
して認めら  
れたので、  
昨年暮れか  
ら柵の補修  
を始めまし  
た。



補修前と補修後

現在、柵の補修作業はオオタカの営巣に影響する恐れもあり6月初め（雛が巣立つ時期）頃から補修作業を再開したいと思っています。

## 若い力に期待したい

4月の惣ヶ池湿地の活動は、スイレン池の泥揚げと池外の湿地内に繁殖したキシノウブの除去作業を行いました。

この日は会員の木村さんが大阪府大卒生と



池の泥揚げ作業＜若者パワーに感謝＞

二回生の二人の青年を連れてこられ、しつこい根を張るキシノウブの除去に大活躍してくれました。

泥に汚れることもいとわない二人の青年の活躍で湿地内に入り込んだキシノウブを除去することができました。

筆者も一緒にキシノウブの除去作業を行いました。腰痛で作業がはかどりません。自分ではまだまだできると思いながらやっていますが、長続きしません。



保全作業後のひととき

もう少し若ければと思うもののこればかりはどうにもなりません。今回の若者の活躍に若き力の有難さを痛感した次第です。

当クラブ会員の平均年齢は年々高くなっています。その内活動に参加していただいていた方も体調を壊されて活動に参加できなくなった方もあり、活動参加者が年々少なくなっている状況です。

今年度の事業計画でも示していますが、私たちが行う保全活動に学生等若者が参加した場合、交通費として1回1000円程度を支給することにしています。大学等のインターン受け入れなども含めて活動参加者を確保しなければ環境保全は益々難しくなるのではないかと危惧しています。

## 惣ヶ池湿地”憩いの広場”

12月も中旬になると惣ヶ池湿地の格納庫とベンチがある広場（自称“憩いの広場”）は、



憩いの広場<晩秋>

落ち葉で埋まってしまいます。毎年この落ち葉をかき集め、子どもたちが落ち葉の山で遊べるようにシートを被せてそこに飛び込んで遊べるようにしています。

昨年の暮れ、近所の知人が千葉県から帰省した息子夫婦と孫を連れって”憩いの広場“にやって来ました。

落葉のクッションで遊んだ後、筆者の孫が来た時のために作っておいた弓矢を取り出し、その扱い方を教えて貸してあげたところ。子どもはばかりかその子の両親が気に入って矢を放って楽しんでいました。

筆者の孫はコロナの関係で来なかったのですが、落ち葉のクッションがない5月の連休に来るといので、弓矢だけでなく他に孫たちが喜びそうなものはないかと考え、木の枝にロープを掛けただけのブランコを作ることになりました。

ベンチのすぐ側に大きなアベマキがあります。その木の大きな枝に径12ミリのロープを吊り下げてブランコを作りました。高い木の枝にロープを掛ける作業は大変でしたが、5月の連休にやってきた孫たちは、そのブラ



自然の中の手作りブランコに遊ぶ孫たち

ンコを楽しんでいました。

ここでは、保全活動日にみんなで弁当を食べたり、コーヒーを飲んだりする憩いの場になっており、散策に来る近所の人たちの休憩の場ともなっています。

## 花の散歩道

<ニワゼキショウ>



信太山丘陵里山自然公園の整備が行われています。管理棟から西側エリア草原へ南に向かう舗装された園路を歩くと園路脇に幾つかが花が観察できます。

その中でも目を見張るのはその園路の片側に沿ってニワゼキショウが群生というか密生しています。

園路工事を行った際に埋土種子が発芽したのかと思っていましたが、どう考えてみても広い範囲でこんなに密生するとは考えられません。かといって誰かが種を蒔いたという感じでもありません。園路工事に当たり外部から土を運んできたのかどうか。

これまで、ニワゼキショウもオオニワゼキショウどちらも公園予定地内には疎らにありました。みんなが楽しめる花でもあり残していくことにしています。

## 編集後記

本号は3月末発行の予定でしたが、総会準備などに追われて発行が遅れてしまいました。記事不足もあり、みなさんからの投稿をよろしくお願い致します。